

多賀城跡あやめ園



多賀城市には、奈良時代前期から約300年もの間、東北地方の中心地として陸奥国の国府が置かれていた国の特別史跡多賀城跡があり、その一角に「多賀城跡あやめ園」がある。

市では史跡の有効活用と花と緑のまちづくりの一環として1985年（昭和60）に植栽を始め、現在、広さ約2万1千㎡に800種300万本のあやめや花菖蒲が植えられている。シーズンには見事な花を咲かせ、市民や観光客の目を楽しませている。

1986年（昭和61）に市制施行15周年を記念して市花を「あやめ」と制定。翌年からは多賀城跡あやめ園を会場に「多賀城跡あやめまつり」が開催され、市民と観光客の交流の場となっている。

さらに、あやめ園の西隣では、多賀城創建1300年にあたる2024年（令和6年）の完成・公開に向け、南門の復元工事が実施されており、歴史と花の融合でより一層賑わいの地となる予定だ。

